様式７

「学校」部門

河川基金助成事業

「川との関わりを通して、自然に興味を持ち、

命の不思議さ・神秘性を感じる事業」

報告書

助成番号：2019 - 7111-001

宮城県仙台市ろりぽっぷ幼稚園・保育園

園長　　氏 名　　加茂　光孝

２０１９ 年度

様式　8

〔学校部門〕　　［概要版報告書］

助成番号	助成事業名		学校名
2019-7111-001	川との関わりを通して、自然に興味を持ち、命の不思議さ・神秘性を感じる事業		学校法人ろりぽっぷ学園 ろりぽっぷ幼稚園・保育園
校長名	加茂　光孝	担当教諭名	相原　千秋
過去の助成実績	なし　(あり)〔助成番号：2018-7111-001 助成事業名：川と触れ合い、自然・命の不思議さを感じる事業　〕		
キーワード	「川遊び」「命について」		
対象児童生徒	高校生（　年　　名）　中学生（　年　　名）　小学生（　年　　名） 幼児（年長児８８名）		
対象河川名	名取川・広瀬川	活動場所の指定状況	なし　(子どもの水辺)　水辺の楽校

年間学習計画（シラバス）における本助成事業の位置づけ

テーマ　：川と触れ合い、自然・命の不思議さを感じる
ねらい　：川の自然を肌で感じ、自然の雄大さや神秘さを知り、川に対する興味・関心を高めていく。
評価の観点：幼児期の終わりまでに育ってほしい１０の姿の自然との関わり・生命尊重の部分の育ちがみられたか
活動時期　：７月～翌年３月

活動形態	総合的な学習の時間	各教科学習（　　）	各教科学習（　　）	学校行事	その他（　　）	合計
上記の活動時間数	時間	時間	時間	時間	時間	時間

支援者等（複数記入可）

保護者	外部小学校	外部中学校	外部高校	外部大学	市民団体	専門家等
河川管理者	行政機関（博物館、資料館）等		関係団体（漁協、農協）等		企業	その他
支援概要						

活動成果	発表形態			成果作品
	学級単位	(学年単位)	学校全体	
	対外発表（　　）			

安全対策に関する課題

今年度は、大型の台風の影響で河川が氾濫してしまったこともあり、川への恐怖が保護者や子どもたちの中に残っていた。ライフジャケットを着用する重要性や、川で溺れてしまった時の流され方など、子どもだけではなく、その保護者へも伝えていく必要があると感じた。

活動の成果と今後の課題・展開

川遊びでは、今年も子どもたちが川の自然に触れ、自然の雄大さ神秘さを感じる機会を作ることができた。
毎年サケの飼育を行ってきたが、今年度は、大型台風による河川の氾濫と海水温の上昇の影響等もあり、サケが遡上してくる数が減少し、漁協の方からサケの卵をいただくことが出来なかった。その代わりに、今年はサクラマスの卵を育てることになったのだが、子どもたちにとって、新たな生態系の気付きになったり、地球温暖化について考えるきかっけにもなった。今年度の子どもたちが気付いたことを次年度の子どもたちにも引き継ぎ、学園として継続して河川の環境を考えることができるようにしたい。

活動内容と実施時期（主な活動を２つのみ記入）

	部門	大分類	中分類	小分類	実施時期
データベースに登録する活動分野	学校部門	教育活動	体験活動 系	川遊び	７～８月
			生物調査 系	生き物と環境	１２～３ 月

※データベースに登録する活動分野は、助成事業実施の手引きP.47の一覧表から代表的なものを２つ記入して下さい。

様式　13

〔学校部門〕　　［活動写真］

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-7111-001	川との関わりを通して、自然に興味を持ち、命の不思議さ・神秘性を感じる事業	ろりぽっぷ幼稚園・保育園 園長　加茂　光孝

フィールド：仙台市太白区秋保町・神ヶ根(名取川)
日　　付：令和元年８月
コメント：年長児が行う川遊びでは、川に触れながら自然の大きさや美しさ、不思議さに気付き言葉にする子どもたちの話に耳を傾けてきた。丁寧に関わっていくことで自然を五感で味わい、自然の法則や仕組みを知ることができていた。また、川の中を流れたり、友だちと繋がって歩いたりする経験を通し、自ら行動し、自らの安全を守ることへの意識に繋げていった。

　また、園では高さ４メートルの岩の上からの跳び込みに挑戦している。前年度の年長児の姿を見ていた子どもたちは「絶対に跳ぶ」と意気込んでいたが、実際に岩の上に立つと「こわい」「だけど、頑張りたい」と自分の気持ちと向き合い、葛藤する姿が見られた。その姿を十分に認めながら、自分で考えて、決断することの大切さを伝えていったことで「こわいけどやってみる」「今日はやめる」と自己決定する大切さに気づくことが出来ていた。跳ぶことができた子も跳ぶことができなかった子も「やってみないと分からないからやった」「できて嬉しい」「今日は出来なかったから次は頑張りたい」と自己決定することで自信に繋がり、子どもたちの心の育ちに繋げることができた。

フィールド：仙台市若林区(ろりぽっぷ幼稚園・保育園)
日　　付：令和元年１１月
コメント：前年度の年長児が行っていた鮭の飼育活動を見ていたこともあり、次は自分達が鮭を育てるのだと期待を持っていた子どもたち。しかし、毎年１１月に遡上していた鮭が、地球温暖化の影響や近海の水温変化によりほとんど遡上していないことを知り、「サケさんいないの？」「海が温かくなっているの？」と驚きを感じながらも海と川の繋がりや、地球の気温と生き物との繋がりを知ることに繋がった。また、温暖化の影響で鮭よりも数が減っているサクラマスという魚がいること、魚の数が減ることで川の生態系や自分達の生活にも影響がでるということを教えてもらったことで「え、まずいじゃん！」「その魚どうなっちゃうの」「かわいそう」「何かできないかな」と、サクラマスを心配すると同時に、なんとかできないかと自分達にできることを考える子ども達の姿があった。また、そのサクラマスの卵を育ててほしいと頼まれたことで「育てる！」「ぼくたちが守らないと、いなくなっちゃうもんね」と、生き物の生態系や環境の変化、命の繋がりに気づき、サクラマスを飼育することへの期待や責任感に繋がっていった。

フィールド：仙台市若林区(ろりぽっぷ幼稚園・保育園)
日　　付：平成３０年１２月
コメント：サクラマスを飼育することへの期待が膨らんでいる子どもたちの前に１００匹もの卵がやってきた。嬉しい気持ちと共に「自分たちがサクラマスのパパとママなんだ」「自分たちが守るんだ」という責任感を持つ姿があった。小さな卵を目の前に「ちいさいね」「これがサクラマスになるんだ」と驚く子どもたちもいた。この卵がこれからどんな成長を見せるのか期待を持ちながら、命を守るために自分たちにできることを探し、飼育していった。

フィールド：仙台市若林区(ろりぽっぷ幼稚園・保育園)
日　　付：令和２年１月
コメント：サクラマスの飼育をしていたある日のこと、サクラマスの一匹が死んでしまっていることに気付いた子どもたち。「どうして死んじゃったんだろう」「お腹空いてたのかな」と死んでしまった理由が分からなかった子どもたちは、理由を探るため川に詳しい菅原さんに電話をしたところ「お腹が空いていたからではないか」とのことだった。餌

をあげる時期になっていたことに気付かず、死なせてしまったことに「サクラマスごめんね」と、命を失う悲しさを大いに感じ、再度命を育てることの責任の重さを感じていった。その後、餌をあげ忘れないためにはどうしたらいいか、年長全体で話し合った結果、餌をあげたかどうかチェックする「エサのチェックリスト」やサクラマスに関し気付いたことや情報を共有する「サクラマスノート」を作ることとなった。そうすることで、「今日餌あげたかな？」「汚れてるから掃除した方がいいかも」「浄化槽の掃除の仕方みんなに伝えた方がいいんじゃない？」など、友だち同士で声を掛け合ったりサクラマスノートを利用したりしながら、意欲的に飼育活動に取組む姿が見られていった。この時から更にサクラマスに対し愛着と意欲と持って世話を行う子ども達の姿が見られ、命の尊さ、命を守ることの責任、仲間と協力することの大切さを感じていった。

フィールド：仙台市若林区(ろりぽっぷ幼稚園・保育園)
日　　付：令和２年１月
コメント：サクラマスも徐々に成長していき、個体差も開いていく様子に疑問を感じていたある時、一匹の大きなサクラマスが小さなサクラマスを捕食している姿を目にし「サクラマスがサクラマス食べてる！！」「なんで！？」と驚きと悲しみを感じた子どもたち。再度、菅原さんに聞くとお腹を空いた時は共食いをすること、サクラマスは同じ種類でも餌を食べられる量によって個体差が生まれ、住む場所と名前が変わる事など、より自然の厳しさや命を守ること、命が繋がる難しさを知ることに繋がっていった。

フィールド：仙台市若林区(広瀬川)
日　　付：令和２年２月
コメント：１２月にサクラマスの卵を預かり、２月末に放流を行うこととなった。今までサクラマスと毎日関わり、成長を見てきたことから愛情が深まり「寂しいよ」「もっと一緒にいたい」と別れを悲しむ子どもたちの姿があった。今後サクラマスは自分で餌を見つけ、海そして川に分かれ、旅をすることを学んだ子どもたちは「川でも頑張るんだよ」「私たちのこと忘れないでね」とそれぞれの思いを一匹一匹に告げていった。
　サクラマスの飼育を通し、自分たちがサクラマスの親代わりとなり世話をすることで責任感を持って行動する力やサクラマスの“生と死”を通して命の尊さを感じる心が育っていった。また、一人だけでは行えないことも友だちと助け合いながら飼育してきた経験から仲間の存在を感じながら成長する子どもたちの姿があった。１年を通し「自然」と触れ合う中で自然の中にある自分たちと生き物との関係性や、命の大切さを感じながら、人との繋がり、命の繋がりを大切にする心が育っていった。

様式14

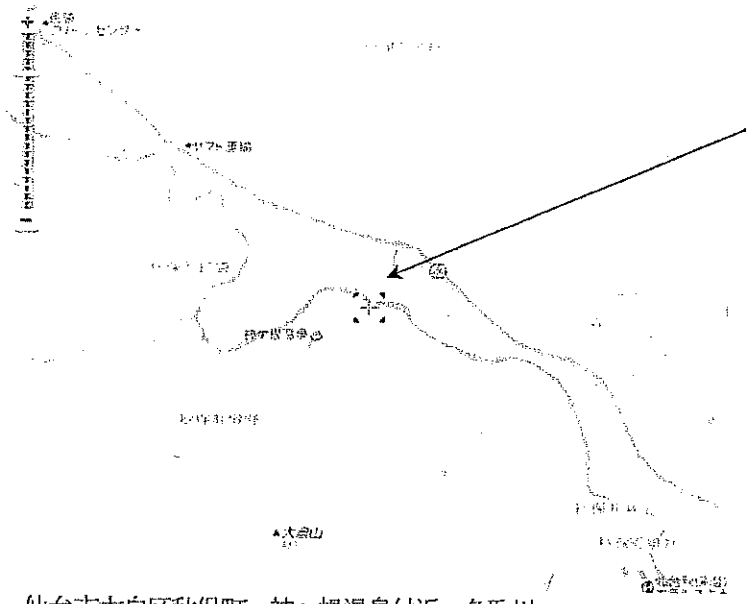
〔学校部門〕 ［実施箇所位置図］

助成番号	助成事業名	学校名・学校長氏名
2019-7111-001	川との関わりを通して、自然に興味を持ち、命の不思議さ・神秘性を感じる事業	ろりぽっぷ幼稚園・保育園 園長　加茂　光孝

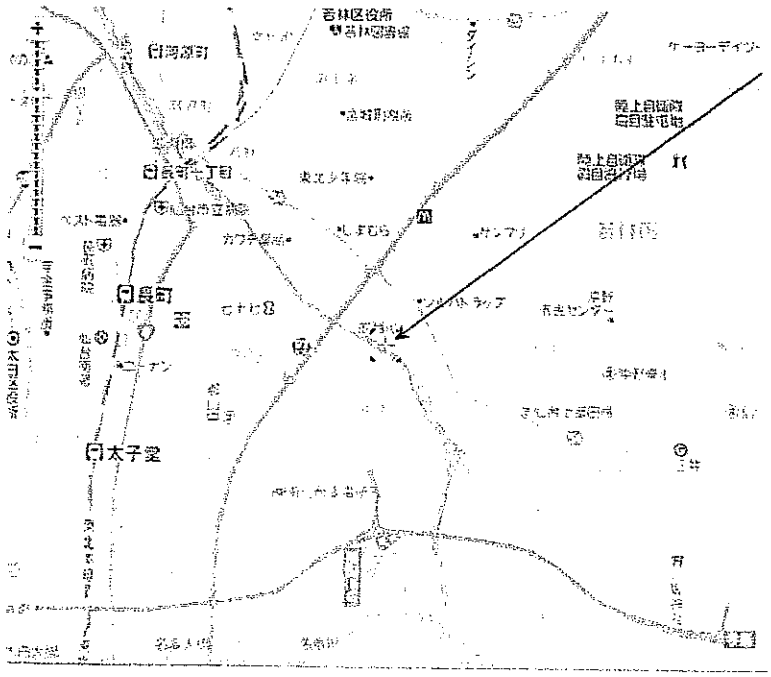
助成事業の主な実施箇所

主な実施箇所

※環境学習を数カ所で実施している場合は、代表的な箇所を2カ所程度記載してください。
※ダム等の施設を見学した場合は、当該施設の位置図を記入して下さい。
（縮尺は1/50万～1/100万程度）



仙台市太白区秋保町　神ヶ根温泉付近・名取川



仙台市若林区若林　広瀬川